

には必ず受けていた夫を見ると、もう少し早くガン検診の制度が出来ていたら、初期発見で助かったかもしれないと、悔やまれてなりません。ガンになってからも香里病院に検診に行った人です。

しかし、夫が広島から帰ってから、貧しいながらも、西条時代、新居浜時代、それから大阪に出て来て、守口市、寝屋川市でささやかながらも、親子同じ屋根の下で楽しい日々も過ごせました。あの乳飲み子を抱え、夫の安否を、これからどうしたら良いのかさえ、考える事も出来ない程の嘆きの日々から考えると、戦争の無いこの五十年近くたちましたが、戦争の無い平和が、本当の平和だと実感しています。これからの人達は私達のような、悲しい人生を受けないうように、戦争などしないよう願います。

します。戦争をしたから、原爆が落ちたのだと思います。戦争は人間だけでなく、人間の心までなくさせるのですから。夫の虎夫は大切に保管するのだよと、私が頼りないので自分の体験記と私と子どもの事も書き残していてくれたのですが、大切に大切にと思つて、逆に何処にしまったのか、分かりませんので、十分に伝える事が出来ませんでした……

一九九三年三月十日

